

2015年度第1号のレター発行となります。本号では、2015年9月19日(土)に神田外語学院にて開催されました「第41回支部例会(兼東北支部合同大会)」での発表要旨、並びに、2016年1月9日に開催を予定しております第42回支部例会のご案内を掲載致します。

日本比較文化学会関東支部事務局長 郭 潔蓉

### ◆第41回 関東支部研究例会 ご報告◆

2015年9月19日(土)、神田外語学院・3号館・501教室において第41回関東支部例会(兼東北支部合同大会)が開催されました。当日は5組(7名)の会員による研究発表が行われましたが、各発表において積極的な意見交換がなされ、大変有意義な例会となりました。終了後、神田駅近くにて懇親会を行い、会員同士の親睦を深めることが出来ました。以下、例会での研究発表の要旨を掲載致します。

◆開会の挨拶: 関東支部長 近藤俊明 (東京未来大学)

総司会: 花澤 聖子(神田外語大学)

#### 1. 日本文化のミーム試論

広島大学客員研究員 平澤 洋一  
福岡工業大学短期大学部准教授 橋本 恵子  
東京大学大学院 連 婷婷

ミームには諸説ある。ここでは「人の脳から脳へとコピーされる情報」と名づけ、日本文化のミームには、第3人称的視点からのミームとしては理研の「DNA 塩基多型集団構造を考察」、松本秀雄先生の「Gm 遺伝子によるミーム」、斎藤成也先生の「HLA 遺伝子」などがあげられる。第1人称的視点からのミームとしては「伝統的質感的ミーム」(習俗・祭祀などにおいて見られる質感と「進化・伝播・継承」などが関与するミーム)が考えられる。

日本文化を「基本構造+展開規則+文化記号ノリモノ」と仮定し、「A 自然環境+B 民族+C 言語+D 文化圏+E 宗教+F 国民性+G 伝承+H 芸能+I 社会構造+J 位相+K 身体特徴+L しぐさ+M 身振り+N 心理+O 気質+P 性格+Q 特性+R 生活感+S 幸福感」を基本構造とする。A~S は下位要素に分かれ、自然環境なら「A→A<sub>1</sub>生業+A<sub>2</sub>衣食住+A<sub>3</sub>民具+A<sub>4</sub>技術+A<sub>5</sub>芸術…」、文化圏なら「D→D<sub>1</sub>出生地文化圏+D<sub>2</sub>居住地文化圏…」となりこれを展開規則とする。N~S はクオリア(質感)となる。模倣・伝播・進化・社会的改革を文化的記号ノリモノと位置づけたい。実証はこれからの作業となる。

#### 2. カズオ・イシグロの *Never Let Me Go* の小説と映画を比較して

明治大学非常勤講師 武富 利亜

カズオ・イシグロは、*Never Let Me Go* のなかで人間のクローンを主人公に据えている。イギリスにおいてクローン羊のドリーが誕生したのは、1996年である。*Never Let Me Go* は、空想科学小説であるが、設定された舞台

は未来ではなく、1990年代のイギリスである。つまり、イングロは現実とさほどかけ離れた時間設定にしないことで、読者に「人間のクローンがいたら」という架空世界を思い描くことを容易にしたのだ。

イングロは、*Never Let Me Go*のクローンの子どもたちが、生きることのできる時間に制限をもたせることで読者が常に「死」を意識させるようにしているのが分かる。そして、「死」を意識するクローンにとって重要になってくるのが、「過去の記憶」である。過去の記憶は、映画版、小説版ともに大半を占めている。しかし、小説と違い、架空世界であっても映画は、動画で観るものに現実的な世界を物理的に展開させなくてはならない。小説は主人公が多くを語らずとも読者に想像をさせることによって物語を展開させていくことが可能だが、映画は視覚的な効果に依拠することが多いためそうはいかない。また、映画版は、イングロの小説を読んだことがない観客でも感情移入をさせやすくするために意図的に台詞やストーリーラインをある程度絞って「テーマ」を分かりやすくさせる必要があるだろう。物語の「テーマ」は、俯瞰的にみると映画と小説の両方ともに同じように見える。しかし、詳細に比べてみると、実は映画のテーマは、小説とは異なっているということに気がつく。映画制作にもプロデューサーの一人として関与しているイングロが映画版で伝えたかったものとはなにか。オリジナルである小説版とどう違うのかを比べることによりその意味を考察したい。

### 3. ヨハネ・パウロ二世によるユダヤ教との対話

八戸学院大学教授 木鎌 耕一郎

第二次大戦終結 70 周年の今年、ユダヤ教にとってはアウシュヴィッツ解放(ホロコーストの終結) 70 周年であり、カトリック教会にとっては、第二バチカン公会議の閉幕 50 周年にあたる。第二バチカン公会議は、教会の「刷新」と「現代化」が目指された。とりわけ、同公会議が公布した「キリスト教以外の諸宗教に対する教会の態度についての宣言」(*Nostra Aetate*)では、キリスト教以外の諸宗教に対して「心からの敬意をもって考慮」し、その信奉者たちと「賢明に愛をもって…対話し協力することによって」、他宗教の内に存在する「霊的・道徳的な富や社会的・文化的な諸価値を認識し保持し推進する」ことを宣言している。他宗教の具体例として、ヒンドゥー教と仏教に短く触れ、イスラム教とユダヤ教には項目を分けて詳しく扱っている。ヨハネ・パウロ二世は *Nostra Aetate* の精神の具現化のために多様な試みを組織的に行った教皇であり、とりわけユダヤ教との関係改善を熱心に推し進めた。本発表では、半世紀にわたる両宗教間の対話を概略的に示し、ヨハネ・パウロ二世在位期の諸々の教皇庁文書とその反響を整理し、現代のユダヤ教とカトリック教会の宗教間対話の論点を明らかにする。

### 4. 日本知識人が眺めた近代朝鮮 — 朝鮮滞在期の安倍能成を中心に —

宇都宮大学大学院博士後期課程 金 光一

夏目漱石の門下生でもある安倍能成(1883—1966)は、第一高等学校と東京帝国大学を卒業し、その後、京城帝国大学の教授、第一高等学校長、文部大臣、貴族院議員、憲法改正特別委員長、帝室博物館長、学習院長を次々と歴任するなど、学問および教育にその生涯を捧げた人物である。

ここで注目したいのは、1926年に安倍能成が京城帝国大学の教授として就任し、自分の母校である第一高等学校長として転出する1940年まで朝鮮に滞在したことである。安倍能成は約15年間という長い期間を朝鮮に滞在しながら、日本による朝鮮の植民地支配の実態や、朝鮮に滞在する日本人の生活や実態などを観察したのである。しかし、近代の朝鮮社会を客観かつ相対的な立場から眺め、朝鮮文化を捨てるべきものではなく、守るべきものとして見ていた安倍能成の業績にも関わらず、日本による朝鮮の植民地支配に抗えなかったという批判も受けており、安倍能成のどちらに焦点を当てるかにより、その評価は変わってくる。

ここでは、朝鮮滞在期における安倍能成の「矛盾」「逃避」「理解」という3つの側面に焦点を当てることにより、

改めて安倍能成の朝鮮観について考察する契機としたい。

## 5. 非正規雇用の外国人家庭に対する地域支援活動事例の考察 — 磐田市南御厨自治会(地域づくり総務大臣賞受賞)の実践について —

東京未来大学講師 金塚 基

本報告では、多文化共生にかかわる理念を整理しながら、地域社会における多文化共生の必要性について再検討した上で、地域社会における多文化共生の取組み事例として、磐田市南御厨地区の取組みを分析・考察の対象とした。当該地区は、自治会として初めて総務省による2006年度の「地域づくり総務大臣表彰(国際化部門)」を受賞している。社会的排除に対しては、その多面的な排除に対抗する経済的・社会的・文化的を含めた複層的な構造をもつ「社会的包摂」支援システムによる解決が必要とされる。外国人家庭との共生が課題とされる場合、地域社会における生活ネットワークに根づいた支援の促進を通じて、複層的な資本形成の課題に位置づけられるべきといわれている。よって、多種・多様な地域社会が存在するなかで、自治会というひとつの共通する小集団単位における共生活動の実態を捉えなおし、地域の有する可能性を見出すことは重要である。

事例から、顔の見える交流に基づいた人間関係、ネットワークを基盤として地域の活動力が生まれる構造が、南御厨地区の地域づくりの原点であり、また共生活動における基本的な方針・方法であったことが理解される。しかし同時に、南御厨地区にみられるような地域づくりの活動力のポテンシャルは、日本のどの地域にも存在するものではなく独特なものといえる。一連の取組み事例から、地域住民間における信頼関係を基盤とした共助活動が結集した結果、数々の実践が成立していくプロセスを明らかにした。

### ◆閉会の挨拶: 東北支部長 佐藤 和博 (弘前学院大学)

\* 閉会后、懇親会を開催した。

---

### \* 連絡事項 \*

#### ● 次回の「関東支部第42回例会」は、次の通り開催致します。

1. 開催日: 2016年 1月 9日(土)

2. 場 所: 新島学園短期大学

〒370-0068 群馬県高崎市昭和町 53 番地

3. 時 間: 13時~18時 (予定)

4. 発表希望締切: 2015年 12月 11日(金)

但し、上記締切日は「発表者氏名、所属、発表題目のみで構いません。要旨は、12月 25日までに事務局にメールにてご送付願います。

発表予定会員はメールにて関東支部事務局(郭:[kaku-ryo@tokyomirai.ac.jp](mailto:kaku-ryo@tokyomirai.ac.jp))までご連絡ください。

以上